

# 豊橋

## スロータウン映画祭の記念誌完成

### 歴史を振り返り 出演者らコメントや作品リストなどを掲載

民間主導で名作を上映する「とよはしまちなかスロータウン映画祭」の20周年記念誌が完成した。映画祭を主催する実行委員会の関係者が21日、市役所を訪れ浅井由崇市長に冊子を進呈し、これまでの活動を報告した。（中嶋真吾）

映画祭は豊橋の街なかの活性化を目的に2002年に始まった。市民有志が企業の協賛と入場料収入で運営。開幕ゲストに樹木希林さんや三浦友和さん、佐藤浩市さん、役所広司さんなど人気俳優を迎え好評を博してきた。累計の入場者数は約8万9000人、上映本数は324本にのぼるとい

う。記念誌「まちなかシネマ〜これまでとコレカラスト〜Ⅱ」では第1回から今年1、2月にあった第20回までの映画祭の歴史を振り返り、出演者から寄せられたコメントや上映作品のリストなどを掲載。

冊子の後半では、昭和から平成にかけて東三河に40館以上あったという映画館をモノクロ写真を交えて網羅的に解説する。作成を手がけた実行委顧問の佐々木順一郎さんは「映画館の郷土史的意味合いでまとめた」と出来栄に胸を張る。東三河がロケ地となった映画も紹介している。

A4判フルカラー96ページ、1000冊を印刷した。スポンサー企業や全国の映画関係者などに配る。豊橋市内の図書館で

閲覧できる。

「まちづくりに貢献できる存在でありたい」。そう映画祭を位置付けた実行委の石川誠会長。「出来る限り継続したい」と

抱負を語った。記念誌を受け取った浅井市長は「文化の香りがしない」とまちなか奥行きにならない」と指摘。その上で映画祭について「重要な役割を担ってもらっている。引き続き楽しみにしている」と今後の活動にも期待を寄せた。



石川誠会長(左)と佐々木順一郎顧問(中)から20周年記念誌を浅井由崇市長に贈呈（豊橋市役所で）